

東浦の遺跡

町域の海寄りの段丘には、貝塚などの縄文時代から中世の遺跡が点在し、また、西寄りの丘陵部には、多くの中世古窯が確認されています。

宮西貝塚 縄文時代晩期



刻線や刺突文が特徴です。



深鉢形土器 (複製)



貝類全体の75%がハイガイ

入海式土器の特徴

口縁部付近に粘土紐を巻きつけて、そこに刻み目を入れる。土器の底は尖る。

縄文時代

〈じょうもんじだい〉

入海貝塚 (国指定史跡)

縄文時代早期(約7000年前)入海式土器は東海地方の基準となる土器です。

弥生時代・古墳時代・古代

〈やよいじだい〉 〈こふんじだい〉 〈こだい〉

天白遺跡 縄文時代～中世の複合遺跡
いろいろな種類の土器が出土しました。



勾玉の模造品



須恵器

古墳時代



山茶碗と小皿・羽釜

中世



小壺

高杯

台付甕

弥生時代末～古墳時代初頭

金鶏山古墳 古墳時代

東浦町で確認されている唯一の古墳です。直径約10mの円墳でした。

伊久智貝塚・岡田貝塚の

古代の製塩土器



長頸壺

高杯

平瓶

提瓶

中世 〈ちゅうせい〉 鎌倉・室町時代



知多半島では、12世紀以降本格的に窯業生産が始まりました。東浦町から出土した製品は、ほとんどが山茶碗や小皿です。

日本の塩

日本の塩は、海水からつくられています。

古代の塩づくり〈土器製塩〉

岩塩などの塩資源に恵まれないわが国では、塩からい海の水を使って塩づくりをはじめました。海水を濃縮し、それを専用の土器(製塩土器)に入れて煮つめ、塩をつくりました。こうした方法を、土器製塩と呼んでいます。



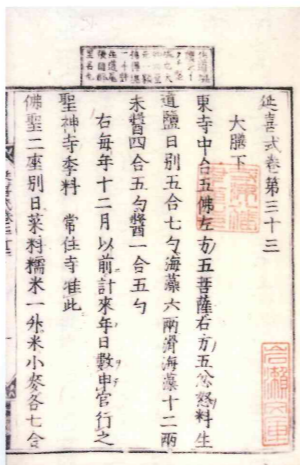
土器製塩

祭祀に用いられた特別な塩

東浦の塩〈生道塩〉

平安時代にまとめられた書物『延喜式』には、生道塩が京都の東寺の供物として納められたことが記されています。

「東寺の五体の仏・五体の菩薩・五体の忿怒に生道塩を一日に五合七勺、わかめを六両、あらめ(海藻)を十二両、味噌を四合五勺、醤油を一合五勺お供えする」



『延喜式』卷三十三大膳下 享保版本 (西尾市岩瀬文庫蔵)

東寺中台五佛左方ノ五菩薩右方ノ五忿怒ノ料生道塩日別五合七勺海藻六両滑海藻十二両末醬四合五勺醬一合五勺…

—伊久智神社と生道塩—



東浦町大字生路にある伊久智神社は、ご祭神として塩作りを教えた神とされる塩土老翁を祀っています。また、ご神体は塩の塊であるといわれ、塩との関わりがうかがえます。境内には伊久智貝塚があり、製塩土器をはじめ、須恵器や土師器が出土しています。時期は7～10世紀、「生道塩」の時代に人々の生活があったのは確かなようです。

世界の塩

世界には、岩塩などの塩資源に恵まれたところがたくさんあります。昔海だった場所が、地殻変動で陸になり、海水も一緒に閉じこめられました。そして、海水が蒸発した後に、塩分をたくさん含んだ土地ができました。

池からつくった塩

池をつくと土地の塩分が水に溶け出します。その水が蒸発すると塩の結晶が池の底にたまりま



ニジェール産 家畜用塩
とれた塩をヤシの木をくり抜いて作った型に入れて固めます。

湖の塩

濃い塩分を含んだ水が低い土地にたまって塩湖になりました。

ケニア産(マガディ湖)
砕いてソーダ灰をつくりま



ボリビア産

天日塩

天日塩田は、日本と同じように、海水から塩をつくる方法です。太陽エネルギーと風の力がたよりです。



メキシコ産

岩塩

岩のように固く堆積した塩の層が地面の下にできました。



オーストラリア産



ドイツ産



アメリカ産